

科目・コース（ユニット）名： 性差医療・医学 4

英語名称：Gender-specific medicine

【担当責任者】

主担当責任者 山口 明子（性差医療センター・産科婦人科学講座）

副担当責任者 島袋 充生（糖尿病内分泌代謝内科学講座）

【連絡先】 akiko-y@fmu.ac.jp

【開講年次】 4 年, 【学期】 前期, 【必修／選択】 必須,

【授業形態】 講義

【概要】性差医療とは性差とライフステージを意識した医療である。本コースでは、性差の構築、性差医療の概念・背景と生殖器以外の性差のある疾患また病態に焦点をあて、性差医療の重要性を講義する。

【学習目標】

- 1) 性差を決定する染色体、性ホルモン、内外性器、ジェンダーに関してその特徴を説明できる。
- 2) 性差医療の概念と歴史・背景を説明できる。
- 3) 生活習慣病（肥満症、高血圧、脂質異常症、糖尿病、骨粗しょう症）や心血管疾患、メンタルヘルス、内分泌疾患など実際の疾患の病態における性差の特徴を説明できる。

【教科書】 指定しない

【参考書】

Principles of gender-specific medicine, Marianne J Legato,

Elsevier academic press, USA

性差医学入門 女と男のよりよい健康のために 監修 貴邑富久子 じほう

性差医療 性差医学が医療を変える 編集 天野恵子 （真興交易出版部）

内科臨床誌 medicina vol.62 No.2

明日から始める「性差医療」性差とライフステージを考える 医学書院
オスとは何で、メスとは何か？ 諸橋 憲一郎 NHK 出版

【成績評価方法】

出席については、原則として9回すべての出席が必要である。やむを得ず欠席した場合は、講義項目についてのレポート提出で代用とする（コース終了時のレポート提出とは別とする）。

講義内容における知識が身についたかを確認するため、全コース終了後に

○各講義テーマから1つ（複数でも可）

○なぜ性差医療の観点が必要か

のいずれかを選び（両方でも可）、講義から学んだこと・自身で調べたことなどをまとめたレポートを提出する。

(目安として A4 用紙 2-3 枚程度 (フォント 11pt・行数 35-40 行程度))

上記出席点・レポートで評価し、試験は行わない。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

性差医療の視点はこれからの医学にとって重要であるが、現在のところ性差医療について系統立った学生講義を行っている大学はいまだ少ない。本コースでは、9 コマの講義を通じ、

○性差の構築を多面的に (生物学的・社会的・ライフステージなどの点から) 学ぶ

○性差医療を全診療科に関わる横断的な医学領域としてとらえる姿勢を学ぶ

○性差医療の成り立ちや歴史を知ることから、ジェンダード・イノベーション (性差の視点を研究や技術開発に活かす) の分野まで幅広く学ぶ

ことを特色としている。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2026/5/18	月	7	(講) 性差医療の概念・歴史・背景	天野恵子
2	2026/5/26	火	6	(講) メンタルヘルスと性差	三浦至
3	2026/6/2	火	6	(講) 性差医療と泌尿器疾患	小川総一郎
4	2026/6/12	金	6	(講) 生活習慣病と性差	島袋充生
5	2026/6/12	金	7	(講) 心血管疾患と性差	島袋充生
6	2026/6/19	金	6	(講) 骨粗しょう症と性差	山口明子
7	2026/6/26	金	6	(講) 性差の構築 (基礎医学的観点から)	諸橋憲一郎
8	2026/7/3	金	6	(講) 性差の構築 (臨床医学的観点から)	山口明子
9	2026/7/10	金	6	(講) 性差医療の現在地とこれから	小宮ひろみ

【担当教員】

教員氏名	職	所属
山口明子	准教授	福島県立医科大学附属病院 性差医療センター ・福島県立医科大学 産科婦人科学講座
島袋充生	教授	福島県立医科大学 糖尿病内分泌代謝内科学講座
三浦至	教授	福島県立医科大学 神経精神医学講座
小川総一郎	准教授	福島県立医科大学 泌尿器科学講座
小宮ひろみ	センター長	国立成育医療研究センター・女性の健康総合センター
天野恵子	特別顧問	静風荘病院
諸橋憲一郎	名誉教授 客員教授	九州大学 久留米大学

【医師として実務経験のある教員による授業科目】該当する